

令和7年度 奈良県知事賞

「税金がつくる未来」

大淀町立大淀中学校 3年 椿本 凌久

「税金」と聞くと、多くの人は「お金を取られるもの」という印象を持つかもしれません。しかし、私は税について調べるうちに、税が「日本の未来への投資」であることに気づきました。税は、私たちの暮らしを支えるだけでなく、次の世代のための社会づくりに欠かせない役割を果たしているのです。

私たちの身近なところには、税金によって成り立っているものがたくさんあります。たとえば、毎日通っている学校の建物や教科書、給食の一部も税金でまかなわれています。病院や救急車、警察や消防といった命を守る仕組みも、税金があるからこそ機能しています。道路や橋、公園の整備、さらにはごみの回収など、普段何気なく利用しているサービスの多くが、実は税金で支えられているのです。

特に印象的だったのは、ある大雨災害のニュースでした。被災地では、避難所が設けられ、食料や毛布がすぐに届けられていました。その様子を見て、私が驚いたのは、その支援の多くが税金によって行われているということです。自然災害は、誰にでも起こりうることです。そんなとき、税金を通じて国や自治体が支援してくれる仕組みがあるからこそ、人々は少しでも安心して暮らせるのだと感じました。

また、税金は未来を築くための投資でもあります。子どもたちの教育や若者の進学支援、高齢者の介護や年金制度、環境保護や技術開発など、将来を見据えた様々な取り組みに税金は使われています。つまり、税金は「今」だけでなく「これから」のためにも使われているのです。

もちろん、税金をただ払うだけではなく、その使い道に関心を持つことも大切です。限られたお金が正しく使われているか、無駄はないかを見守ることも、私たち一人ひとりの責任です。将来、私も働くようになれば税金を納める立場になります。その時に、「税金が社会を支える」という意識を持っていれば、納税にも納得感を持てると思います。

税金は、目には見えづらいかもしれませんが、私たちの生活や未来に深く関わっています。一人ではできないことを、みんなで支え合う。その仕組みが、税なのだと思います。これからも税について考え続け、よりよい社会づくりに参加していきたいです。